講義名	リーダーシップ論					授業形態	
担当教員	内田　遼介	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 ３時限				
		単位数	2	履修開始年次	１年生	ナンバリング	

主題と概要

優れた業績を挙げる組織は多くの場合、優れたリーダーによって統率されている。この講義では優れたリーダーとはいかなる資質を持つ人物なのか、またどのように組織を統率しているのか、リーダーシップに関する心理学研究が明らかにしてきた研究成果を中心に解説する。また、組織が持つ性質について、社会心理学の研究成果を適宜紹介しながら解説する。いずれも、優れたリーダーを目指すうえで大切な知識であり、社会に出てからも大いに役立つものである。

到達目標

①リーダーシップに関する理論を理解し、それを他者に説明できるようになる。
②組織のマネジメントに関する理論を理解し、それを他者に説明できるようになる。
③実際に活躍しているリーダーについて、何が優れているのかリーダーシップに関する理論や組織のマネジメントに関する理論から説明できるようになる。
④多様な人材によって構成される組織を効果的に導く方法を理解できるようになる。

提出課題

・講義終了後の課題、感想・質問の提出
・プレゼンテーションに関連する資料の提出

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

・毎週、講義内容に関する感想・質問を提出してもらう。提出された感想・質問のうち、特に全体で共有した方が望ましい内容については、復習を兼ねて翌週の冒頭5分程度を使って紹介・解説をする。
・第13週目と第14週目に実施するプレゼンテーションについては、発表終了後に担当教員から即座にフィードバックをする。また、学生間でプレゼンテーションの出来について相互評価を実施する。学生間の相互評価については担当教員が集約したうえで、第15週目に各学生にフィードバックする。

評価の基準

・第1週目～第10週目に提示する課題（30%）
・第11週目の理解度確認テスト（35%）
・第13週目・第14週目のプレゼンテーション（35%）

履修にあたっての注意・助言他

・原則として毎週、課題と感想・質問の提出を求める。両方の提出をもって出席とする。
・第13週目と第14週目のプレゼンテーションについては、原則1名すつの発表を予定しているが、受講者数によっては、2名1組などグループでの発表に切り替える可能性がある。
・第13週目までに各自でプレゼンテーションを録画してオンライン上にアップロードすることを求める。そのため、マイク付きのパソコン(Webカメラも付いていることが望ましい)を使用できる環境があり、かつパソコン上でOfficeソフト（特にPowerPointとWord）をある程度使いこなせるスキルを有していることを求める。ただし、このような作業環境やスキルが無い場合であっても、受講生同士で協力して解決できるのであれば受講可能である。
・プレゼンテーションに係る作業を自己完結できない受講生については自主的補講に参加することを求める。
・基礎能力（パソコンの基礎）や情報処理入門などの講義を通じて、ある程度パソコンの基本的な操作（ファイルの保存方法など）やOfficeソフトの操作に慣れておくことが望ましい。

教科書

.使用しない.				

参考図書

.社会心理学におけるリーダーシップ研究のパースペクティブⅠ.	坂田桐子・淵上克義	ナカニシヤ出版	3300	9784779502187
.社会心理学におけるリーダーシップ研究のパースペクティブⅡ.	坂田桐子	ナカニシヤ出版	4950	9784779512155

その他

授業計画

1 授業ガイダンス、イントロダクション: リーダーシップとは？
2 リーダーシップの源泉: 社会的勢力について
3 個人特性に着目したリーダーシップの理論 (1) : 個人特性研究の歴史
4 個人特性に着目したリーダーシップの理論 (2) : ビッグファイブとリーダーシップ
5 行動に着目したリーダーシップの理論 (1) : オハイオ研究、アイオワ研究、ミシガン研究
6 行動に着目したリーダーシップの理論 (2) : マネジリアルグリッド理論、PM理論、変革型リーダーシップ理論
7 状況に着目したリーダーシップの理論: 状況即応理論、SL理論、パス・ゴール理論
8 リーダーシップ研究の現代的トピック (1) : 破壊的リーダーシップ
9 リーダーシップ研究の現代的トピック (2) : サーバントリーダーシップ
10 組織のマネジメントに関わる理論： 社会的手抜き、ブレインストーミングの有効性
11 ここまでのまとめ: 理解度確認テスト
12 プレゼンテーションに向けた情報収集
13 プレゼンテーション (1)
14 プレゼンテーション (2)
15 総括: 優れたリーダーの特徴について考える

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
○	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

＜予習＞
・毎回講義終了後に、次週の予告と講義内容に関するキーワードを提示するので、各自そのキーワードを参考に関連図書などを通じて予習しておくことが求められる（2時間程度）。
＜復習＞
・講義終了後に講義中に学習した内容について再度確認のうえ整理しておくことが求められる。さらに、新聞記事データベースなどを使って講義内容に関連する事例を探し出し、リーダーシップに関する理解を深めることが望ましい（2時間程度）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

＜スポーツ健康コース＞
リーダーシップや組織のマネジメントに関する諸理論を理解するだけでなく、実際に多様な人材で構成される組織を効果的に導く方法を理解しておくことは、健康関連産業やスポーツ関連産業で就業する際に有用な知識となる。また、リーダーシップに関する理論を体系的に学ぶことを通して、幅広い年齢層に対応できるコミュニケーション能力やリーダーシップ力、マネジメント力を獲得できる。そのほか、授業後半に実施するプレゼンテーション経験を通じて、プレゼンテーション能力の一端を身に着けることができる。

＜スポーツマネジメントコース＞
リーダーシップや組織のマネジメントに関する諸理論を理解するだけでなく、実際に多様な人材で構成される組織を効果的に導く方法を理解しておくことは、健康関連産業やスポーツ関連産業で就業する際に有用な知識となる。また、授業後半に実施するプレゼンテーションの経験を通じて、スポーツをキーワードとする関連事業分野、業種において企画運営する能力が身につくほか、分析・評価を行う能力を身に着けることができる。

＜起業・事業承継コース＞
リーダーシップに関する心理学の理論について理解を深めるとともに、それらの知識を踏まえて他者に具体的なリーダー(企業経営者・起業家など)を示しながらプレゼンテーションする経験を通じて、企業組織の中でリーダーシップを発揮して具体的な改善方法や解決方法の提案ができる。また、組織マネジメントに関する心理学の理論や、企業組織を効果的に導く方法について理解を深めることで、企業マネジメントに係る諸問題の探索、ならびに課題提案ができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

・Googleフォームを使って課題の提示や理解度確認テストを行う。
・クリッカー（respon）を使って講義中に紹介した内容について学生一人ひとりから質問や感想を求めることがある。

実務経験の有無及び活用

なし

備考

・授業の内容や進め方は社会情勢や受講生の理解度に応じて変更する場合がある。
・一時的に通学困難になった場合は、対面授業の中での対応となる。オンデマンド授業への移行措置はしない。
・講義期間中に受講に関わるトラブルが発生した場合は担当教員までメールにて連絡すること。その際、学籍番号・氏名・受講している講義名・トラブルの詳細を必ず本文中に記載して連絡すること。